

Si-R370 V33.00 変更内容一覧

□機能追加・改善

No.	項目	内容
1	新ハードウェア対応	PRI拡張モジュールL3(SIR37PRB)サポート
2	ARP認証機能	MACアドレス認証等の認証機能では、本装置の配下にある端末の認証が可能ですが、新規に導入する場合には、ネットワークのスイッチを全て交換する必要があります。そこで、ネットワークにアドオンするタイプの不正端末検出機能をサポートしました。
3	MACアドレス収集機能	本装置内の認証データベースを利用しMACアドレス認証／ARP認証を行う場合、事前に認証データベースへの端末MACアドレスの登録が必要です。本機能を使用することにより自動的にMACアドレス情報を収集し、本装置内の認証データベースに一括登録することができます。
4	MP機能拡張	ISDNと専用線でのMP接続をサポートしました。ISDNと専用線を論理リンクとして構成し、負荷分散&論理リンク内バックアップが可能になります。
5	IPsec機能拡張	IKEネゴシエーション優先度の指定を追加しました。これによりIKEネゴシエーションの失敗事象を低減できます。
6	DHCPサーバ機能拡張	・WINS(NetBIOS)サーバアドレス広報をサポートしました。 ・SIPサーバアドレス広報をサポートしました。
7	BGPグレースフルリスタート機能(レシーブルータ機能)	相手ルータ側でBGPグレースフルリスタート機能が発動しても、Si-R側での一時的なBGPセッション切断による経路情報消失を防止することができます。
8	syslogサーバ複数指定	syslogサーバを3箇所まで指定できるようにしました。更に、サーバ毎に送信プライオリティの設定ができるようにしました。
9	SNMP機能拡張	・IPv6関連MIBの追加。 ・SNMPエージェント機能にV3、V2cを追加しました。
10	エラーログ仕様変更	FLASHへ格納可能なelog数について、全機種101個に仕様を統一しました。
11	Web設定改善	Web設定画面で[保守情報]-[構成定義情報]を選択した場合に、編集構成定義(candidate-config)または運用中構成定義(running-config)のいずれかより選択し回避できるようにしました。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V21.00～	10/100BASE-TX拡張モジュールL2(SIR37ET)を使用した通信において稀にパケットの転送が50ミリ秒程度遅延することがある。
2	V21.00～	未サポートのcapabilityが設定されたOPENメッセージを受信した場合に、NOTIFICATIONを送信してしまい、相手装置とBGPセッションがはれない
3	V21.00～	5バイト以上のデータ部を持つ未サポートのcapabilityを受信した場合に、送信するNOTIFICATIONの中のcapabilityの5バイト目以降が化ける
4	V21.00～	ASBRが動作しているOSPFエリアの種別を一般エリアからNSSAに動的定義変更すると、ABRが変換できないtype7 LSAを生成する場合があります。
5	V21.00～	一般エリアで動作するASBRを、経路変動発生の直後に一般エリアからNSSAエリアに動的定義変更すると、ABRが変換できないtype7 LSAが生成される場合があります。
6	V21.00～	NSSAのASBRとして動作しているとき、再配布経路がなくなってもメモリが開放されない。
7	V30.00～	OSPF(Internal Area)経路のABRのインタフェース経路がOSPF(External Area)経路情報”と表示される場合があります。
8	V21.00～	ospf ip definfoの動的定義反映で、default経路のLSAが正しく生成、または削除されない場合があります。
9	V30.00～	show ip ospf routeにおいて、バックボーン以外でAS外部type1経路を表示すると、Area IDが常に、0.0.0.0と表示される。
10	V30.00～	show ip ospf protocolで表示される再配布情報に誤りがある。
11	V21.00～	OSPFネットワークが複数エリアで構成された構成において、ASBRを含むエリアをNSSAに変更すると、ABRがtype7 LSAをtype5 LSAに変換しない場合と、ASBRのNSSA外部経路を誤計算する場合があります。
12	V21.00～	IPv4 OSPFで、areaのdefcostの値が初期値以外でも、構成定義をallパラメタ付きで表示すると、初期値が表示される。
13	V21.00～	RIP, BGP, OSPFの統計情報クリア操作コマンドを実行しても、統計情報がクリアされない場合がある。
14	V31.00～	RADIUSサーバ冗長構成にてサーバ停止後の初回認証要求送信以降、サーバ無応答検出までの間に送信した認証要求がサーバ切替後に再送されない。
15	V32.00～	DHCP MACアドレスチェックでダウンする場合がある。

16	V32.00～	DHCP MACアドレスチェック機能で端末からのDISCOVER/REQUESTにClient-identifierオプションがある場合、正しくアドレスが割り当てられない。
17	V30.00～	動的VPN機能を使用し、発信・切断を繰り返しおこなうと内部資源の開放漏れが発生する場合がある。
18	V31.00～	動的VPN接続ができない場合がある。
19	V32.00～	NATトラバーサルを使用している環境でIPsec/IKEトンネルが使用できなくなる場合がある。
20	V21.00～	装置内でIKEを設定しているremote定義と手動鍵を設定しているremote定義が混在し、各々でremote定義で接続先監視を行い、接続先がダウンした場合にIKE側の接続先監視が復旧しない場合がある。
21	V32.00～	IPsec/IKE定義が設定済みの状態で、ike portを変更して定義反映後、IKEネゴシエーションができない。
22	V30.00～	動的VPNで接続中の相手トンネルエンドポイントアドレスと同じアドレスのIPsec/IKE定義を行い、反映後に接続するとシステムダウンが発生する。
23	V32.00～	Aggressive ModeでNATトラバーサル機能を使用して接続／切断を繰り返すなどPhase1ネゴシエーションを頻繁に行うと資源枯渇が発生する。
24	V32.00～	複数のテンプレート定義が同一の動的VPNクライアント情報を参照している状態で一つのテンプレート定義を変更すると変更のないテンプレートの動的VPNセッションが切断されてしまう。
25	V30.00～	テンプレートのRADIUS/AAA着信において16進数で奇数桁の共有鍵を使用すると、IKEネゴシエーションで失敗する。
26	V30.00～	テンプレート定義の動的VPN接続を行い、Phase1ネゴシエーション確立に15秒以上かかり、かつ、相手側動的VPNクライアントからの切断要求が受信できない場合に動的VPNセッションを解放できなくなり、再接続不能となる。
27	V21.00～	IKEネゴシエーション中に、すべてのIPsec/IKE定義を変更しcommitまたはresetを行うとシステムダウンする場合がある。
28	V21.00～	VU#267289に対する対応を実施する。
29	V21.00～	マルチNATを使用した時にプライベートポート番号28800番のUDPパケットが通過すると、システムダウンもしくは異常動作をする場合がある。
30	V21.00～	NATを使ったICMP通信が不可となる場合がある。
31	V21.00～	BAP使用し、チャンネル数増加を実施する際に、過去に発呼失敗となった番号に対して発信しない。
32	V21.00～	nosSystemErrorTextのMIB取得後にシステムダウンする場合がある。
33	V21.00～	getnext要求にて符号付き32ビットの最大値を超えるOID(具体的には2,147,483,647を越える値) 指定時、適切なOIDが検索できず、期待するOIDのMIB値が取得できない。
34	V21.00～	不当なIPアドレス/MACアドレスをインデックスとして指定時、期待するMIB値が取得できない。IPアドレスはxxx.xxx.xxx.xxx (xxxは255以内)、MACアドレスはxx:xx:xx:xx:xx:xx (xxは0x00～0xffの16進数)の形式で指定されるが、不当なインデックスとはxxxが256以上の値を指定されることを指す。
35	V21.00～	OID指定値が符号なし32ビット最大値(4,294,967,295以上の値)を超えた場合、期待するMIB値が取得できない。
36	V21.00～	frame-relayMIBの取得時に取得したMIB値の型が不当な型となる。
37	V21.00～	書込みをサポートしていないMIBの書込み時にシステムダウンが発生する。
38	V30.00～	nosPortExt1グループのMIB取得値が正しくない。
39	V21.01～	Windowsのフリーソフトウェア UTF-8 TeraTerm Pro with TTSSH2 を使用してsshログインを繰り返すとシステムダウンする。
40	V30.00～	“show ipv6 filter summary”コマンド実行時に、256件以上のテーブルが登録されているとSPI tableとdynamic tableの値が正常に表示されないことがある。
41	V30.00～	show vrrp で表示されるVirtual Router IP Address: に設定削除済みの仮想IPアドレスが表示される場合がある。
42	V21.00～	VRRP MIBのvrrpOperMasterIpAddrがマスタ状態である場合に正しい実IPアドレスが取得できない。
43	V21.00～	vrrpOperAuthKeyのMIB取得値にnull文字列が返るべきところが、不定な文字列が返る。
44	V30.01～	OSPFエリア情報/バーチャルリンク情報のWeb設定画面において保存操作を行ったとき、システムダウンする場合がある。
45	V21.00～	ポートスキャン・RCPスキャン時にシステムダウンする場合がある。
46	V30.00～	VRRP手動切り戻し操作画面において、VRRPとして無効な定義が、一覧に表示されてしまう。
47	V21.00～	パスワード情報のWeb設定画面において、管理者パスワード未設定の状態でも一般ユーザクラスのみパスワードを入力して更新ボタンを押下するとエラーにならず、設定反映もされない。(一般ユーザパスワードのみの設定は無効であり、本操作は無効な操作である。)

48	V21.00～	Web設定画面から再起動が必要な設定項目と、再起動が不要な設定項目の両方を変更すると、Web画面上の設定反映ボタンが再起動ボタンに切り替わる。この状態から再起動が必要な設定項目を元に戻した場合、画面のメッセージは「設定反映後に有効になる」と表示されるが、ボタンは再起動ボタンから設定反映ボタンに戻らない。
49	V32.00～	Web設定画面のDHCP情報にて、リレーまたはサーバ機能を使用する設定から使用しない設定に変更を行った時、消去されるべきMACアドレスチェック関連の設定が消去されない。
50	V21.00～	ARPパケットが優先されない。
51	V30.00～	電源投入直後にコンソールでログインし、運用管理モードで改行キーを入力していると、構成定義モード時のプロンプトが表示されることがある。
52	V21.00～	telnet/sshでログイン後キー入力中にログイン前のシリアルコンソールから同時にキー入力されると、telnet/sshで入力したキーデータがコンソールに表示されたり、コンソールで入力したキーがtelnet/sshの動作に影響することがある。
53	V21.00～	時刻同期処理中に時刻同期関連の設定項目を変更して設定反映を行った場合に、設定が反映されない。
54	V31.00～	意図しないタイミングで時刻同期処理が動作する場合がある。 【現象1】定期的に時刻同期を行う定義で動作中に「clear nettime statistics」でNETTIMEクライアントの統計情報をクリアすると、予定より早く時刻同期処理が開始される。 【現象2】時刻同期処理中に構成定義を変更してcommitした場合に時刻同期処理が中断されない。
55	V21.00～	IPv6のリンクローカルアドレスでSNTPサーバとTIME(UDP)サーバが動作しない。
56	V21.00～	SSH/SFTPセッションの切断開始から0.5ミリ秒以内に接続要求を受信するとシステムダウンが発生する場合がある。
57	V32.00～	大量の宛先への自発パケットが短時間に発生した場合に、資源枯渇によりシステムダウンが発生する場合がある。
58	V21.00～	remote定義を利用した通信において、相手装置からフラグメントパケットを受信し、それを転送する場合に、パケット内容が不正になる場合がある。
59	V21.00～	BAPを用いてMPを実施し、チャネル数増加を連続して行った場合に、「autodial locked by redial」のログが出力され、3分間チャネル増ができなくなる場合がある。
60	V31.02～	通信中着信を受け付けた場合に、発着信ができなくなる。
61	V32.00～	装置起動時に構成定義の読み込みに失敗してリカバリモードで起動することがある。
62	V32.00～	装置にログインしてコマンドを実行した際、引数の数が足りないと<ERROR> (null) : Operation not permitted という正しくないエラーが表示されることがある。
63	V32.00～	tailコマンドを付加した表示コマンドを装置起動後、通算で約27000回以上(*1)投入するとシステムダウンまたはハング等の異常が発生する。 *1 : 回数は目安であり機種および運用状況により異なります。(Si-R180/220B/240/260B : 約27000回、Si-R370 : 約70000回、Si-R570 : 約150000回)
64	V30.00～	discardコマンド実行後に構成定義を変更してcommitコマンドを実行すると、エラーが表示されてrunning-configが壊れ、通信できなくなるなど動作に影響を及ぼすことがある。
65	V30.00～	telnetコマンドでIPv6アドレスを指定し、かつ、tosオプションを指定するとシステムダウンする
66	V21.00～	システムログの出力対象プライオリティがデフォルト設定(error, warn, info)の場合、構成定義情報として非表示とすべきところが、表示されていた。
67	V30.00～	reset clear 実行後、diff running-config config1 コマンド、および、diff candidate-config config1 コマンドを実行すると、構成定義の差異が表示される。本件は表示のみの問題である。